



Japan Society of Internship
and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2023 年度 NO.1

■ 目次

- ・ 会長再任にあたって（会長挨拶）
- ・ 第 24 回大会を終えて
- ・ 第 25 回大会開催に向けて
- ・ 理事会報告
- ・ 2023 年度総会報告
（2023-2024 年度運営体制、2022 年度事業報告及び
決算報告、2023 年度事業計画及び予算）
- ・ 年報編集委員会報告
- ・ 広報委員会報告
- ・ 学会表彰委員会報告
- ・ 企画研究委員会報告
- ・ 選挙管理委員会報告
- ・ 支部活動報告
（北海道支部、東日本支部、関西支部、九州支部）
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 会員情報（2023 年 5 月～2023 年 10 月まで）

会長再任にあたって—原点への回帰—



このたび理事の皆さまからの推挙を得て会長に再任されました。本学会は、三省合意によるインターンシップの政策的な導入・推進が始まった 1999 年に設立され、来年 25 周年を迎えます。今、インターンシップはあらたな節目を迎え、本学会も次なる 25 年の発展にむけて研究の方向を見定めていくことが求められています。皆さまと一緒に、新たなステージに向けての研究・教育を拡げ深めていきたいと考えています。

近年学会に参加いただいている会員も多くなって参りました。『インターンシップ研究年報』（第 26 号、2023 年）の講演「職業統合的学習（WIL）と学会のあゆみ」でもお話ししましたが、少し学会の歩みを振り返ってみたいと思います。本学会は、日本におけるインターンシップの展開とともに歩み、それぞれの時期の政策課題、教育現場での実践課題の研究に取り組んできました。創設当初は、学校から職業への移行の日本の特性のもとにあつて、範とする制度・実践を手探りで探索してきました。

2011 年には、本学会はそれまでの研究コミュニティの発展とインターンシップ模索の過程を『10 年の記録（10 周年史）』にまとめました（学会ホームページ https://js-internship.jp/JIS_OLD/jyunenshi.html）。ちょうど同じ年に、中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について（答申）」がとりまとめられています。私もその密な議論に関わりましたが、答申では、一定の普及を見たインターンシップが、キャリア教育・職業教育に欠かせない教育アプローチとして位置づけられました。その答申をもとに、その充実向上にさまざまな政策と実践の取組みがなされていきます。本学会も、インターンシップを広く職業統合的学習（Work Integrated Learning : WIL）の中に位置づけることでの拡充を目指し、学会英語名称を改正し、その観点か

らの国内外の実践や制度の実証的研究を進めてきました。日本学術会議の協力学術団体として、本学会が登録したのもこの時期です。

その節目に呼応するように、資格取得のための実習から、インターンシップ、アルバイトまでさまざまな学外就業体験学習等に研究視野を拡大・深化させてきました。そうしたなか、採用にかかるワンデーインターンシップ等の拡がりへの懸念から、2022 年にはインターンシップの三省合意が改訂され、文部科学省が新たな用語定義を提起するに至りました。ここでは、日本インターンシップ学会・会則第 1 条の「本会は日本インターンシップ学会（The Japan Society of Internship and Work Integrated Learning）と称する。学会のインターンシップの定義は『学生等が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと』と幅広くとらえ、学校と企業等との連携により行われる形態を基本とする。」とした学術的基本理解が、必ずしも十分に反映されていないところがみられます。

インターンシップ専門学会としては、まずは学会創設の原点回帰をはかり「教育としてのインターンシップ」に立ち帰りつつ、これまで 25 年間の学術研究の蓄積を踏まえ、インターンシップの更なる進展と学会の発展に向けて広い視野からの学術研究に取り組むことが、課題となります。

どうぞみなさん、学術と職業の往還を通して、インターンシップと職業統合的学習の研究を拡げ、深めていきましょう。

（第 5 代会長 吉本圭一・滋慶医療科学大学）

第 24 回大会を終えて

2023 年 9 月 16 日（土）、17 日（日）に、第 24 回大会を追手門学院大学茨木総持寺キャンパス（大阪府茨木市）にて開催しました。完全対面、懇親会も 4 年ぶりの開催でした。

大会テーマ「原点回帰。今改めてインターンシップを考える。」は、2022 年 6 月の文部科学省・厚生労働省・経済産業省の三省合意改正等の社会的な環

境変化を踏まえ、インターンシップのこれまでとこれからを考えようという趣旨で企画されたものです。

大会1日目に行われた、「インターンシップの“これまで”と“これから”－政策の変遷を概観する－」がテーマの基調講演では、文部科学省山本栄氏から、これまでのインターンシップを巡る政策の変遷を振り返ると共に、三省合意改正後のインターンシップの方向性が示されました。続くシンポジウムでは、「インターンシップのこれから－それぞれの立場からの想いを込めて－」をテーマに、佐々木ひとみ氏（大学関係者）、伯井守氏（受入事業所）、西本聡子氏（中間支援団体）、栗田貴祥氏（人材関連シンクタンク）による熱い想いの溢れる議論が交わされました。特に採用と大学教育に関する産学協議会における議論の経緯や委員の真意を理解する場ともなり、大会参加者からは三省合意改正に対する想いを見直す機会になったとの声もありました。

また、学会表彰委員会からは、桑畑夏生会員（宮崎大学）による2022年度高良記念研究助成報告に続き、2023年度の採択結果として角光通子会員（宇部フロンティア大学）の受賞が発表されました。続いて、榎本記念賞の最優秀賞として最も秀逸な事例として熊本学園大学（嶋田文広会員）が、秀逸な事例として工学院大学（二上武夫会員・他）、玉川大学（濱田英毅会員・他）、名古屋産業大学（今永典秀会員・他）、大東文化大学（細田咲江会員）の授賞式が行われました。

大会2日目は会員による研究発表17件（4会場）が行われました。どの会場も、4年ぶりの完全対面ならではの、参加者相互の活気に溢れる意見交換がなされました。



大会参加申込者は89名、懇親会参加申込者は39名でした。今回は、吉本会長はじめ理事会のご理解・ご賛同をいただき、完全対面開催となりました。オンラインでないと参加できないというご意見もありましたが、開催大学や所属支部が置かれているそれぞれの状況を踏まえ、今後も持続可能な大会運営モデルを目指し、コンパクトでスマートな大会を模索した大会であったことを、ご理解いただければ幸いです。持続可能な大会運営は、第25回大会開催校の愛知東邦大学に引き継がれると共に、今後の大会の

さらなる研究のご発展とご盛会を祈念いたしております。

最後に、大会にご参加いただいた皆様、運営にご協力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

（第24回大会実行委員長 伊藤文男・追手門学院大学）

第25回大会開催に向けて

次年度（2024年度）の第25回大会は、愛知東邦大学キャンパス（愛知県名古屋市）で開催することになりました。2024年9月14日（土）・15日（日）の2日間で、対面形式での開催を基本として予定しております。2004年の第5回大会（名古屋大学）以来、20年ぶりの名古屋市での開催です。最新情報については、学会ウェブサイトやメルマガ等でご案内します。また、大会ホームページの開設、参加申込受付開始のご案内、「研究発表」募集のお知らせについても、随時情報発信を行ってまいります。大会テーマは、「共創による新たなインターンシップの展望」です。前大会での「原点回帰」を基盤にしながら、新たな「共創」に向けた議論を期待するものです。

今回の開催校について紹介させていただきます。ルーツは1923（大正12）年に誕生した東邦商業学校に遡り、2023年は東邦学園（愛知東邦大学・東邦高等学校）創立100周年です。創立者の下出民義は中部財界の重鎮であり、政治家としても活躍し、その多年にわたる実業界や政界での経験から、「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を建学の精神に掲げ、「真面目」を校訓としました。少しだけ「真面目」な話から脱線しますが、東邦高校の卒業生には、NHK大河ドラマ「どうする家康」の本多忠勝役の山田裕貴さんがいます。伊武雅刀さんや奥田瑛二さんも卒業生です。大学としては、1965年に東邦学園短期大学がスタートし、2001年に4年制大学となって現在に至ります。最近ではスポーツの話題が満載（硬式野球部が2022年に、男子サッカー部が2023年に一部リーグ昇格）ですが、他大学や企業等との連携協定も加速させており、インターンシップ等の学生のキャリア形成支援にも力を入れてきています。

今回の大会実行委員会には、2016年、2020年の大会運営を担われた東日本支部の皆様には実行委員として参画いただき、支部運営委員の皆様にも大会運営のご協力をいただく「共創」の実践を目指してまいります。記憶に残る大会開催に向けて、会員の皆様のご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

（第25回大会実行委員長 手嶋慎介・愛知東邦大学）

理事会報告

2023年度 第1回理事会(2023年8月7日*Web会議)

入退会の審査、第24回大会準備状況、高良記念研究助成・楨本記念賞の3つの事項が協議されました。また、前回理事会の議事録が確認されるとともに、理事選挙の結果ならびに各委員会・各支部、25周年記念誌編纂WGの活動状況が報告されました。加えて、事務局より、①会費のオンライン決済を活用することの依頼、②2022年度決算の監査状況、③2023年度予算の編成状況、④総会開催案内文の説明、⑤各支部の事業計画の確認、について説明と依頼が各理事になされました。協議の概要は次のとおりです。

(1) 入退会の審査

・事務局より資料が提示され、協議を行った結果、入会3件(個人会員2件、法人・団体会員1件)、退会11件(個人会員10件、学生会員1件)を承認した。本理事会承認後の会員数は215件(個人会員177件、学生会員4件、法人・団体会員34件)となることが確認された。あわせて、会費未納期間4年目まで自然退会(会則上は3年)手続きを1年見送る特例について、2023年度まで継続することが説明され承認された。

(2) 第24回大会準備状況

・伊藤大会実行委員長より資料に基づき説明があり、台風等自然災害に対する懇親会、個人研究発表への対応が協議され、懇親会が中止の場合には懇親会費を参加者に返金すること、個人研究発表が中止の場合には、要旨集への掲載をもって書面発表したもののみならず(ただし、当該事象が生じた場合の書面発表実績を、口頭発表等の研究実績に含めることの判断は著者に委ねる)ことを決定した。また、大会1日目のプログラムを中止する場合には、会員総会についても同様に中止(延期)することが確認された。

(3) 高良記念研究助成・楨本記念賞

・小林学会表彰委員会委員長より資料に基づき説明があり、高良記念研究助成、楨本記念賞について原案通り承認された。楨本記念賞の在り方について、小林理事より表彰候補となる対象を幅広くするなど意見が表明され、それ以外の意見も含めて次期体制に引き継ぐ旨が報告された。

2023年度 第2回理事会(2023年9月5日*Web会議)

入退会の審査ならびに第24回大会準備状況に加え、2022年度決算・事業報告、2023年度予算・事業計画、2023年度総会資料(案)の協議を行いました。また、前回理事会の議事録確認と各委員会・各支部・事務局より、報告がなされました。協議の概要は次のとおりです。

(1) 入退会の審査

・事務局より資料が提示され、協議を行った結果、1件の退会(個人会員)を承認した。本理事会承認後

の会員数は214件(個人会員176件、学生会員4件、法人・団体会員34件)となることが確認された。

(2) 第24回大会準備状況

・伊藤大会実行委員長より、①参加申し込み状況、②懇親会会場の変更、③要旨集録のデータ配信の3点の説明と対応に関する提案があり、協議の結果、全ての提案が承認された。

(3) 2022年度決算・事業報告

・事務局より、資料に基づき2022年度決算・事業報告(案)を説明した後、平尾監事より、監査の結果、適切に会計処理が行われていることが確認されたこと、今後の課題として支部運営費の会計報告ならびに余剰金返金手続きが遅いことで決算処理が遅れていることの指摘がなされた。新谷監事からも、決算資料等について適切に処理されている旨が報告された。これを踏まえ、協議の結果、2022年度決算ならびに事情報告が承認された。

(4) 2023年度予算・事業計画

・事務局より、資料に基づき2023年度予算・事業計画(案)の説明がなされ、協議の結果、承認された。

(5) 2023年度総会資料(案)

・事務局より、資料に基づき2023年度総会資料(案)の説明がなされ、協議の結果、承認された。また、誤植・修正等の確認の依頼が各理事になされた。

2023-2024年度新理事懇談会(2023年9月5日*Web会議)

理事選挙の結果を踏まえ、2023-2024年度の理事による懇談会が行われ、新会長の挨拶の後、新体制と各委員会の役割、今後の理事会の予定が確認された。(事務局)

2023年度総会報告

2023年度総会が、2023年9月16日(第24回大会1日目)に対面とオンラインの併用(対面会場:追手門学院大学)形式で開催されました。2023年度総会では、次の7つの議題および議案についての審議が行われ、承認されました。

1. 2023-2024年度の運営体制(案)
2. 2022年度事業報告(案)
3. 2022年度決算報告(案)・2022年度監査報告
4. 2023年度事業計画(案)
5. 2023年度予算(案)
6. 2023年度高良記念研究助成ならびに楨本記念賞について
7. 第25回大会について(案)

(事務局)

2023-2024 年度 運営体制

1. 役員 (50 音順、敬称略)

会 長：吉本 圭一

副 会 長：稲永 由紀・古田 克利・山口 圭介

常任理事：牛山 佳菜代・椿 明美・平尾 元彦・真鍋 和博・和田 佳子

理 事：伊藤 文男・今永 典秀・岩井 貴美・上岡 史郎・亀野 淳・桑畑 夏生・見目 喜重・
高橋 秀幸・手嶋 慎介

監 事：安孫子 勇一・坂野 慎二

事務局長：山口 圭介

事務局次長：古田 克利・岩井 貴美

2. 各委員会等 (◎：委員長、○：副委員長、50 音順、敬称略)

* 年報編集委員会

◎稲永 由紀・○牛山 佳菜代・岩井 貴美・小林 純・手嶋 慎介・平尾 元彦

* 広報委員会

◎上岡 史郎・○見目 喜重・伊藤 文男・桑畑 夏生・古田 克利・宮崎 愛弓・
和田 佳子

* 学会表彰委員会

◎真鍋 和博・○高橋 秀幸・伊藤 文男・今永 典秀・上岡 史郎

* 企画研究委員会

◎平尾 元彦・○稲永 由紀・岩井 貴美・亀野 淳・高橋 秀幸・田中 寧

* 選挙管理委員会

◎椿 明美・伊藤 一統・山口 圭介

* 25 周年記念事業

・ 25 周年記念誌刊行 WG

◎江藤 智佐子・山口 圭介・和田 佳子

<2022 年度事業報告及び決算報告>

2022 年度 事業報告

1. 2022 年度事業期間

2022 年 7 月 1 日～2023 年 6 月 30 日

2. 事業の概要

(1) 第 23 回大会開催（対面とオンラインによるハイブリッド開催）	2022 年	8 月 27 日
*開催校：久留米大学		～28 日
(2) 『インターンシップ研究年報』第 25 号発行	2022 年	10 月 28 日
(3) 2022 年度 高良記念研究助成実施	2022 年	—
(4) 企画研究活動の実施	—	—
(5) NEWS LETTER 発行	No. 1	2022 年 12 月 2 日
	No. 2	2023 年 5 月 29 日
(6) Web サイトの充実等広報活動の充実	—	—

3. 総 会

定 例 2022 年 8 月 27 日（対面とオンラインによるハイブリッド開催）

4. 理事会

第 1 回	2022 年	8 月 4 日	(Web 会議)
第 2 回	2022 年	8 月 25 日	(Web 会議)
第 3 回	2022 年	11 月 20 日	(Web 会議)
第 4 回	2023 年	2 月 21 日	(Web 会議)
第 5 回	2023 年	5 月 14 日	(Web 会議)

5. 各支部報告

(1) 北海道支部			
①第 1 回研究会（於：札幌国際大学/ハイブリッド開催）	2022 年	9 月 25 日	
②支部総会・第 2 回研究会（オンライン開催）	2023 年	6 月 18 日	
(2) 東日本支部			
①支部総会・第 1 回研究会（於：目白大学/ハイブリッド開催）	2023 年	1 月 28 日	
②第 2 回研究会（Web 開催）	2023 年	3 月 30 日	
③支部総会・第 3 回研究会（於：目白大学/ハイブリッド開催）	2023 年	6 月 3 日	
(3) 関西支部			
①第 17 回研究会（於：キャンパスポート大阪/ハイブリッド開催）	2022 年	12 月 16 日	
(4) 九州支部			
①第 28 回研究会（於：久留米大学福岡サテライトキャンパス/ハイブリッド開催）	2023 年	2 月 4 日	
②第 29 回研究会（於：久留米大学福岡サテライトキャンパス/ハイブリッド開催）	2023 年	3 月 27 日	

2022年度 日本インターンシップ学会 一般会計 収支計算書

(2022年7月1日～2023年6月30日)

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2022年度予算(a)	2022年度決算(b)	予実差異(b-a)	
会費収入	小計	2,420,000	2,430,000	10,000	
	個人会員	1,740,000	1,745,000	5,000	
	学生会員	20,000	5,000	-15,000	
	法人・団体会員	660,000	680,000	20,000	
事業収入	小計	0	0	0	
	研究会収入	0	0	0	
	書籍・年報等販売収入	0	0	0	
雑収入	小計	0	546,803	546,803	
	受取利息	0	0	0	
	その他の収入	0	0	0	
	大会開催費余剰金	0	0	0	
	北海道支部余剰金	0	143,465	143,465	
	東日本支部余剰金	0	129,995	129,995	
	関西支部余剰金	0	129,450	129,450	
	九州支部余剰金	0	143,893	143,893	
	当期収入合計(A)		2,420,000	2,976,803	
	前期繰越金		8,849,835	8,849,835	
収入合計(B)		11,269,835	11,826,638		

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2022年度予算額	2022年度決算(b)	予実差異(b-a)
事業費	小計	1,810,000	1,461,642	-348,358
	北海道支部活動費	200,000	200,000	0
	東日本支部活動費	200,000	200,000	0
	関西支部活動費	200,000	200,000	0
	九州支部活動費	200,000	200,000	0
	大会開催費(大会開催準備費)	300,000	300,000	0
	年報作成費	400,000	246,752	-153,248
	J-stage掲載関連費	60,000	0	-60,000
	記念事業費	100,000	0	-100,000
	役員選挙費	100,000	114,890	14,890
	名簿作成費	50,000	0	-50,000
事務管理費	小計	2,029,600	1,072,434	-957,166
	通信費(郵送料等)	120,000	52,970	-67,030
	HP管理費	39,600	54,962	15,362
	役員・委員等旅費補助	350,000	0	-350,000
	業務外部委託費	1,020,000	951,747	-68,253
	広報委員会経費	300,000	0	-300,000
	企画研究委員会経費	100,000	8,960	-91,040
	その他運営費	100,000	3,795	-96,205
当期支出小計		3,839,600	2,534,076	-1,305,524
特別会計へ	積立金	100,000	100,000	0
	寄付金	100,000	0	-100,000
予備費	予備費	7,230,235	0	-7,230,235
当期支出合計(C)		11,269,835	2,634,076	
当期収支差額(A)-(C)		-8,849,835	342,727	
次期繰越金(B)-(C)		0	9,192,562	
支出合計		11,269,835	11,826,638	

2022年度 日本インターンシップ学会 特別会計 収支計算書

(2022年7月1日～2023年6月30日)

特別会計【収入の部】

(単位：円)

大科目	中科目	2022年度予算(a)	2022年度決算(b)	予実差異(b-a)
寄付金		100,000	0	-100,000
積立金	小計	100,000	100,000	0
	一般会計より	100,000	100,000	0
雑収入	小計	0	23,964	23,964
	受取利息	0	0	0
	その他の収入	0	23,964	23,964
当期収入合計(A)		200,000	123,964	
前期繰越金		79,931	79,931	
収入合計(B)		279,931	203,895	

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2022年度予算(a)	2022年度決算(b)	予実差異(b-a)
特別事業費	小計	200,000	100,000	-100,000
	高良記念研究助成事業	100,000	100,000	0
	槇本記念賞事業費	100,000	0	-100,000
事務管理費	小計	1,000	84	-916
	振込手数料	1,000	0	-1,000
	その他	0	84	84
予備費	予備費	78,931	0	-78,931
当期支出合計(C)		279,931	100,084	
当期収支差額(A)-(C)		-79,931	23,880	
次期繰越金(B)-(C)		0	103,811	
支出合計		279,931	203,895	

2022年度 日本インターンシップ学会

貸借対照表兼財産目録

(2023年6月30日現在)

(単位：円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
【流動資産】	9,839,550	【流動負債】	543,177
預金	9,566,635	未払費用	133,177
郵便振替口座①	9,546,635	前受金	410,000
郵便振替口座②	20,000		
未収入金	272,915		
【固定資産】	0	【固定負債】	0
		(純資産の部)	
		剰余金	9,296,373
		(一般会計繰越金)	9,192,562
		(特別会計繰越金)	103,811
資産合計	9,839,550	負債・純資産合計	9,839,550

(注)本来は貸借対照表と財産目録を個別作成する必要があるが、財産が僅少のため当面本表にて対応することとする。

<2023 年度事業計画及び予算>

2023 年度 事業計画

1. 2023 年度事業期間

2023 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日

2. 事業の概要

- | | | |
|---|--------|-------------|
| (1) 第 24 回大会の開催 | 2023 年 | 9 月 16-17 日 |
| (2) 支部研究会の開催（各支部 1～3 回程度） | — | — |
| (3) 学会研究活動の企画・推進 | — | — |
| (4) 『インターンシップ研究年報』第 26 号の刊行 | 2023 年 | 10 月を予定 |
| (5) News Letter の発行（年 2 回）及びその他の広報活動の充実 | — | — |
| (6) 2023 年度 高良記念研究助成実施 | — | — |
| 2024 年度 高良記念研究助成募集・選考 | — | — |
| (7) 学会創設 25 周年事業の実施（継続） | — | — |

2023年度 日本インターンシップ学会 一般会計 予算

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2023年度予算額	2022年度予算	2022年度実績	2021年度実績	2020年度実績	予算増減
会費収入	小計	2,380,000	2,420,000	2,430,000	2,570,000	2,695,000	-40,000
	個人会員(10,000円)	1,730,000	1,740,000	1,745,000	1,850,000	1,830,000	-10,000
	学生会員(5,000円)	20,000	20,000	5,000	20,000	45,000	0
	法人・団体会員(20,000円)	630,000	660,000	680,000	700,000	820,000	-30,000
事業収入	小計	0	0	0	0	0	0
	研究会収入	0	0	0	0	0	0
	書籍・年報等販売収入	0	0	0	0	0	0
雑収入	小計	0	0	546,803	560,670	940,141	0
	受取利息	0	0	0	0	0	0
	その他の収入	0	0	0	1,000	200,000	0
	大会開催費余剰金	0	0	0	118,601	0	0
	北海道支部余剰金	0	0	143,465	199,615	199,505	0
	東日本支部余剰金	0	0	129,995	10,149	199,340	0
	関西支部余剰金	0	0	129,450	139,285	155,406	0
	九州支部余剰金	0	0	143,893	92,020	185,890	0
当期収入合計(A)		2,380,000	2,420,000	2,976,803	3,130,670	3,635,141	-40,000
前期繰越収支差額		8,919,647	8,849,835	8,849,835	8,579,965	8,180,884	69,812
収入合計(B)		11,299,647	11,269,835	11,826,638	11,710,635	11,816,025	29,812

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2023年度予算額	2022年度予算	2022年度実績	2021年度実績	2020年度実績	予算増減
事業費	小計	2,060,000	1,810,000	1,461,642	1,610,813	1,832,321	250,000
	北海道支部活動費	200,000	200,000	200,000	200,000	212,368	0
	東日本支部活動費	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	0
	関西支部活動費	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	0
	九州支部活動費	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	0
	大会開催費(大会開催準備費)	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	0
	年報作成費	400,000	400,000	246,752	428,863	626,692	0
	J-stage掲載関連費	60,000	60,000	0	48,950	10,450	0
	記念事業費	400,000	100,000	0	0	0	300,000
	役員選挙費	100,000	100,000	114,890	33,000	82,811	0
	名簿作成費	0	50,000	0	0	0	-50,000
事務管理費	小計	3,090,000	2,029,600	1,072,434	1,149,987	1,203,739	1,060,400
	通信費(郵送料等)	120,000	120,000	52,970	88,957	115,690	0
	HP管理費	1,000,000	39,600	54,962	39,600	42,900	960,400
	役員・委員等旅費補助	350,000	350,000	0	0	0	0
	業務外部委託費	1,020,000	1,020,000	951,747	1,016,315	967,923	0
	広報委員会経費	300,000	300,000	0	0	0	0
	企画研究委員会経費	200,000	100,000	8,960	0	0	100,000
	その他運営費	100,000	100,000	3,795	5,115	77,226	0
当期支出小計		5,150,000	3,839,600	2,534,076	2,760,800	3,036,060	1,310,400
特別会計へ	積立金	100,000	100,000	100,000	100,000	0	0
	寄付金	100,000	100,000	0	0	200,000	0
予備費	予備費	5,949,647	7,230,235	0	0	0	-1,280,588
当期支出合計(C)		11,299,647	11,269,835	2,634,076	2,860,800	3,236,060	29,812
当期収支差額(A)-(C)		-8,919,647	-8,849,835	342,727	269,870	399,081	-69,812
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	9,192,562	8,849,835	8,579,965	0

2023 年度 日本インターンシップ学会 特別会計 予算

特別会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2023年度予算額	2022年度予算	2022年度実績	2021年度実績	2020年度実績	予算増減
寄付金		0	100,000	0	0	200,000	-100,000
積立金	小計	100,000	100,000	100,000	100,000	0	0
	一般会計より	100,000	100,000	100,000	100,000	0	0
雑収入	小計	0	0	23,964	1,020	0	0
	受取利息	0	0	0	0	0	0
	その他の収入	0	0	23,964	1,020	0	0
当期収入合計(A)		100,000	200,000	123,964	101,020	200,000	-100,000
前期繰越収支差額		103,811	79,931	79,931	86,796	-12,504	23,880
収入合計(B)		203,811	279,931	203,895	187,816	187,496	-76,120

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2023年度予算額	2022年度予算	2022年度実績	2021年度実績	2020年度実績	予算増減
特別事業費	小計	100,000	200,000	100,000	100,000	100,000	-100,000
	高良記念研究助成事業費	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0
	榎本記念賞事業費	0	100,000	0	0	0	-100,000
事務管理費	小計	1,000	1,000	84	440	440	0
	振込手数料	1,000	1,000	0	440	440	0
	その他	0	0	84	0	0	0
予備費	予備費	102,811	78,931	0	7,445	260	23,880
当期支出合計(C)		203,811	279,931	100,084	107,885	100,700	-76,120
当期収支差額(A)-(C)		-103,811	-79,931	23,880	-6,865	99,300	-23,880
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	103,811	79,931	86,796	0

年報編集委員会報告

第 26 号の発刊

『インターンシップ研究年報』第 26 号を発刊致しました。研究論文には 3 本の投稿があり、うち 1 本を研究ノートとして採択しました。編集に際しお力を戴きました全ての会員のみなさまに、改めまして深くお礼申しあげます。

2023-2024 年度の編集体制

第 27 号から新しい体制の下で編集いたします。委員は以下の通りです(敬称略)。

- 委員長 稲永由紀(筑波大学)
- 副委員長 牛山佳菜代(目白大学)
- 委員 岩井貴美(近畿大学)
- 小林純(札幌国際大学短期大学部)
- 手嶋慎介(愛知東邦大学)
- 平尾元彦(山口大学)

年報編集委員会メールアドレスの変更

学会サーバーの切り替えに伴い、年報編集委員会のメールアドレスも変更されました。

新しいメールアドレスは jsi.edit@js-internship.jp です。

第 27 号への投稿・寄稿、ならびに委員会へのお問い合わせには、新しいメールアドレスをご利用下さいますよう、お願いします。

第 27 号への投稿のお願い

第 27 号へ掲載する研究論文を募集いたします。

【投稿締切は、2024 年 1 月 20 日(土) 23:59(厳守)】です。投稿をお考えの方は、第 26 号末および本学会ウェブサイトに掲載しております「編集規程」ならびに「第 27 号研究論文・資料等投稿規程」を必ず確認し、締切、書式を含め、規程にしたがって投稿してください。規程にしたがっていない投稿を受け付けることはできませんので、どうぞご注意ください。

なお、ニューズレター前号で古田前委員長からアナウンスがございましたように、第 27 号から「投稿規程」が一部改訂されております。特に、掲載区分毎に示された要件(「投稿規程」2.)や、投稿する論文が満たすべき条件(同 3.)につきまして、変更内容のご確認をお願いいたします。

会員のみなさまからの意欲的な投稿を、心よりお待ちしております。

(年報編集委員長 稲永由紀・筑波大学)

広報委員会報告

この度、広報委員長を拝命いたしました目白大学短期大学部の上岡史郎と申します。広報委員会は学会情報を内外に発信し「インターンシップに係わる諸問題の研究の推進・普及、社会に対する啓発・提言」に向けて重要な役割を担い活動を行っております。ニューズレターやメルマガ配信などの通常の広

報委員会業務に加えて、現在、学会 web サイトのリニューアル作業を実施しております。広報委員会が行っていく様々な業務について委員会メンバーで着実に行って参りたいと考えております。また、委員会メンバーには各支部から加わっておりますので、各支部で実施する研究会の情報も積極的に発信していければと考えております。

広報委員会構成について

副委員長 見目喜重（豊橋創造大学）
委員 伊藤文男（追手門学院大学）
桑畑夏生（宮崎大学）
古田克利（立命館大学）
宮崎愛弓（目白大学）
和田佳子（札幌大谷大学）

学会ウェブサイト・メルマガ配信について

広報委員会では本学会に寄せられた研究会やセミナー開催案内および教員公募等、会員の皆さまにとって有益な情報を学会ウェブサイトに掲載するほか、随時、メルマガで配信しております。本学会に関連する情報がありましたら、広報委員会までメールにてご連絡ください（jsi.prc@gmail.com）。なお、最終的な掲載可否は広報委員会にて検討させていただきますのでご了承ください。

（広報委員会委員長 上岡史郎・目白大学短期大学部）

学会表彰委員会報告

2023 年度（第 17 回）高良記念研究助成対象者決定報告

高良記念研究助成は、本学会初代会長である故・高良和武先生のご寄付により創設された、特に若手研究者の育成や、会員相互の研究交流を目的とするものです。今年度は 1 名の会員から助成申請があり、委員による厳正な審査の結果、角光 通子会員（宇部フロンティア大学）の「企業・施設の受け入れ側からみる大学生インターンシップの成熟モデルー山口県インターンシップ推進協議会 登録企業調査よりー」の 1 件が採択され、9 月 16 日に開催された第 24 回大会にて発表・表彰が行われました。角光会員の研究報告は 2024 年に予定されている第 25 回大会にて行われる予定です。

榎本記念賞報告

榎本記念賞は、学会顧問、大阪経済大学名誉教授の榎本淳子先生のご寄付により創設され、2015 年の全国大会より 2 年毎に「秀逸なインターンシップ」事例を選定し、表彰を行っております。全国から推薦された事例の中から厳正な審査を行った結果、以下の 5 件の事例が「秀逸な事例」として選定され、第 24 回大会にて表彰されました。

受賞されたみなさま、おめでとうございます。今

後一層のご活躍を祈念いたします。

【最も秀逸な事例（1 件）】

・熊本学園大学（嶋田文広会員）／「長期インターンシップにおけるプログラム設計と就業力～熊本学園大学における長期インターンシップの実践より～」

【秀逸な事例（4 件）】

・工学院大学（二上武生会員他）／「大学とコーディネータ企業・受入企業による「低学年専門人材育成インターンシップ」の共同開発」

・玉川大学（濱田英毅会員他）／「理論と実践の往還の学習としての玉川大学教育学部におけるインターンシップ」

・名古屋産業大学・名古屋経営短期大学（今永典秀会員他）／「就職・キャリア支援・教育プログラムと連動した短期大学における初年時インターンシッププログラムの開発と実践ー名古屋経営短期大学の未来キャリア学科の事例よりー」

・大東文化大学（細田咲江会員）／「正課に位置づけた 5 日間インターンシップの実践報告」

今後も学会表彰委員会では、学会内外を通じて、優れたインターンシップ事例の普及を目的として表彰の運営を進めて参ります。

学会表彰委員会新体制

2023 年度より学会表彰委員会が改編され、以下のような体制でスタートしました。どうぞよろしくお願いたします。

委員長 眞鍋和博（北九州市立大学）
副委員長 高橋秀幸（北海道武蔵女子短期大学）
委員 伊藤文男（追手門学院大学）
今永典秀（名古屋産業大学）
上岡史郎（目白大学短期大学部）

さっそく 10 月 12 日に 2023 年度第 1 回学会表彰委員会を開催し、課題の整理やタスクの確認などを行いました。

（学会表彰委員会委員長 眞鍋和博・北九州市立大学）

企画研究委員会報告

企画研究委員会は、学会員のさまざまな学術的、実践的な研究活動、特に共同での研究活動を促進するとともに、学会として必要とされる研究活動を企画する委員会です。このたび委員長および委員が交代いたしました。当面は、前年度までに研究を進めてまいりました「インターンシップ専門人材（仮）の養成」につきまして、学会創設 25 周年記念事業準備ワーキンググループにて 3 月に実施した「日本インターンシップ学会会員アンケート」の調査結果を含めて検討を進め、とりまとめる予定です。次期研究年報での特集掲載、また、研究報告会等により会員の皆さまには成果共有をはかりたいと思っております。

新たな委員会メンバーは、以下の通りです。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長 平尾元彦（山口大学）
副委員長 稲永由紀（筑波大学）
委員 岩井貴美（近畿大学）
亀野淳（北海道大学）
高橋秀幸（北海道武蔵女子短期大学）
田中寧（京都産業大学）
（企画研究委員会委員長 平尾元彦・山口大学）

選挙管理委員会報告

2023年6月より2023-2024年度新理事選挙を実施いたしました。会員のみなさまのご協力により、6月30日に新理事候補15名が選出されました。その後、新理事候補により会長選挙が行われ、以下のとおり新会長候補、新理事候補が決定しました。

（敬称略、50音順）

選挙管理委員会は、理事会にて新会長、新理事候補選出の最終報告をしました。

2023-2024年度 新会長候補（1名）

会長：吉本圭一

新理事候補（14名）

稲永由紀・今永典秀・牛山佳菜代・上岡史郎・桑畑夏生・見目喜重・高橋秀幸・椿明美・手嶋慎介・平尾元彦・古田克利・眞鍋和博・山口圭介・和田佳子

この後、新会長候補による指名理事を加え、新役員（会長、副会長、常任理事、理事、監事）、および事務局長が、新理事候補の合意により決定され、この結果は、9月16日の総会において提案、議決されました。新体制については、総会報告にて行います。

（2022年度選挙管理委員長 手嶋慎介・愛知東邦大学、2023年度選挙管理委員長 椿明美・札幌国際大学）

支部活動報告

【北海道支部】

2022年度第1回研究会を開催しました

2022年9月25日（日）、2022年度1回目となる研究会を開催いたしました。本会は札幌国際大学をメイン会場として、Zoomでも中継を行うハイブリッド形式での開催となりました。対面・遠隔参加合わせて15名の方にご参加いただきました。

今回は「インターンシップを採用・企業研修活動に積極的に活用している企業」の方から現状と今後の展開についてお話しいただくことを目的として、住宅産業を中心として北海道を拠点とするヤマチユナイテッドグループより、採用に関わっておられる二瓶百花様（株式会社ヤマチマネジメント）に、ご

講演を依頼いたしました。

当企業の採用活動の特徴として挙げられるのが「採用部署ごとのインターンシップ実施」ということです。多領域に事業展開する企業グループとして、業務は多岐にわたるわけですが、採用後のミスマッチが起こらないように、総合職であっても最初の選考時点で志望部署を決定しており、また、インターンシップも採用活動担当者が直接プログラム開発を行っている、というものとなっています。「入社後の『こんなはずじゃなかった』を無くしたい」という考えから始まったインターンシップの導入は、学生への情報発信と合わせて、働くイメージの醸成にも繋がりたい、というものでした。

講演の後は、フロアとのディスカッションを行い、今年6月に決定された、2025年からのインターンシップの変化についても情報が交換されました。二瓶様からは企業は対応に向けて準備が進められている、という話題が出ると、参加者からは教育機関に求められるインターンシップの在り方、また就職活動にとどまらない、職業統合学習に向けた教育活動に関する議論が行われました。

（北海道支部支部長 小林純・札幌国際大学短期大学部）

【東日本支部】

2022年度第3回支部研究会および支部総会の開催

6月3日（土）に、第3回支部研究会ならびに支部総会を開催いたしました。当初は、対面とオンラインのハイブリット形式（ハイフレックス）での実施を予定していましたが、台風2号の接近に伴い、オンライン（Zoom）形式に変更しての開催となりました。

第3回支部研究会は、2022年度の支部研究会テーマ「インターンシップの実践事例を研究につなげる」を基に、これまで実施した全2回の研究会の振り返りとまとめを行いました。また、これまで参加者からいただいた質問などに対して、コメントータの山本美奈子会員（山形大学准教授）から補足説明いただき、その後に質疑応答を行いました。

当日は、全国から20名の皆様に参加いただき、盛会のうちに研究会を終えることができました。研究会後の参加者アンケートでは、研究会に3回連続で参加することで理解や知識が深まった、説明のあった研究のステップを意識して実践し研究発表からまず始めていきたい、一人で研究するのに悩んでいたのが共同研究を考えていきたい、などのコメントをいただきました。今回の研究会を参考として、参加された皆様の研究発表や論文投稿につながることを期待しています。

また、研究会終了後に支部総会を開催し、2022年度の支部事業の報告と支部決算および監査報告、ならびに2023年度の支部事業計画（案）と支部予算（案）が承認されました。

2023 年度第 1 回支部研究会

2023 年度の支部研究会は、「インターンシップ研究における共創」をテーマに、第 1 回支部研究会を 2 月上旬に対面とオンラインによるハイブリット（ハイフレックス）形式で開催予定です。今後詳細が決まり次第、会員の皆様にご案内をさせていただきます。

（東日本支部支部長 松坂暢浩・山形大学）

【関西支部】

第 24 回大会を支援しました

関西支部は、9 月 16 日（土）～17 日（日）に追手門学院大学で開催された第 24 回大会を支援しました。実行委員長の伊藤 文男 会員、副委員長の大串 恵太 会員を中心に、基調講演（文部科学省高等教育局学生支援課の山本 栄 課長補佐）やシンポジウム（コーディネーター：松高政会員、司会：岩井貴美会員）などの企画・運営を分担しました。

関西支部第 18 回研究会の日程などが決まりました

関西支部では、今年も大学コンソーシアム大阪に共催していただき、2023 年 12 月 15 日（金）にキャンパスポート大阪において、支部研究会を開催します。今年も、対面とオンラインのハイブリッドで開催します。

最初の報告者は、南大阪地域大学コンソーシアムの難波美都里事務局長です。2002 年に設立された南大阪地域大学コンソーシアムは 2024 年 4 月に大学コンソーシアム大阪と統合する予定です。それに先立ち、南大阪地域大学コンソーシアムでの 20 年あまりのお取組を振り返っていただく予定です。大阪府消費生活センターの「大学生期における消費者教育推進事業」（2016 年度より実施中）と協力して、同世代や年下の若者等に対する消費者教育の担い手となる「大阪府消費者教育学生リーダー」を育成されたことについてもお話しいただく予定です。

二つ目の報告は、マンガ学部・デザイン学部・国際文化学部などを擁する京都精華大学の中井 咲貴子 会員です。テーマは「芸術・デザイン系大学においてインターンシップが果たす役割とは」です。

正式な案内ができたところで、学会ホームページを通じてお知らせします。交流会も開催しますので、有意義な意見交換ができますことを期待しております。多くの会員のご参加を、心よりお待ちしております。

（関西支部長 安孫子勇一・近畿大学）

【九州支部】

2023 年度九州支部総会

2023 年 8 月 6 日にオンライン（Zoom）形式で 2023 年度九州支部総会を開催しました。以下の議題が協議され、承認されました。

- (1) 2023-2024 年度 支部運営委員について
- (2) 2022 年度会計報告、監査報告
- (3) 2022 年度活動報告

(4) 2023 年度活動計画及び 2023 年度予算計画

また、九州支部の運営を担う役員に桑畑夏生会員（宮崎大学）が加わりました。2023-2024 年度は以下の体制で九州支部の運営を担っていきます。

[2023-2024 年度九州支部運営委員]

支部長 眞鍋和博（北九州市立大学）
顧問 吉本圭一（滋慶医療科学大学）
副支部長 古賀正博（渉外担当／九州インターンシップ推進協議会）／江藤智佐子（広報担当／久留米大学）
運営委員 井本浩之（西九州大学）／嶋田 文広（熊本学園大学）／濱本伸司（（一社）フミダス）／平尾元彦（山口大学）／渡邊和明（鹿児島大学）／桑畑夏生（宮崎大学）
監事 岡本信弘（博多工業高等学校）
事務局長 江藤智佐子（久留米大学）
事務局 坂田美和子（九州インターンシップ推進協議会）

第 30 回研究会報告

支部総会に続き、2023 年 8 月 6 日（日）にオンライン（Zoom）形式で第 30 回九州支部研究会を開催しました。「英国における移行・学び直しとインターンシップの往還」と題し、日本のメンバーシップ型労働市場とは異なるものの、高等教育と職業とのリンクが弱いという共通の課題を持つ英国に焦点をあて、学びと職業の往還の実態を探り、教育と職業とのミッシングリンクをつなぐインターンシップ、職業統合的学習（WIL）の活用について、二人の登壇者から国際的な共同研究データや現場での参与観察をもとに発表いただきました。

平尾元彦会員（山口大学）の司会・進行により、副支部長の江藤智佐子会員（久留米大学）からまず研究会の趣旨説明がなされました。

そして 1 番目の発表として、吉本圭一会員（滋慶医療科学大学）から「英国における学びと職業との往還－日欧の大学教育と職業への移行の比較研究をもとに－」と題し、日欧大卒調査（CHEERS:12 万国 10 万人の大学卒業生調査）の分析結果をもとに、日英の高等教育と職業への移行課題、英国と日本の「エンプロヤビリティ」とインターンシップの政策的アプローチについての課題が提示されました。日英の新卒者の採用と初期キャリアの特徴や英国の「学卒プログラム graduate scheme」など採用要件として大学の専門分野や学業成績がどのような活用がなされているのか、また職業への移行と大学等へのかかわり方、専門分野を通じた職業とのレリバンスに向けた教育のあり方へのインプリケーションが提示されました。

これらの課題を受け、2 番目の発表として、英国留学中の眞鍋和博会員（北九州市立大学）から「英国大学院における学び直し（リスキリング）とインターンシップ」と題し、リスキリング、リカレント、

学び直し等の用語の整理の概念化、自身の大学院留学という学び直し経験からの知見、英国での移行やインターンシップの実情についての報告がなされました。

総括討論では、参加者からの活発な質疑応答がなされ、「人生の時刻表」の問い直しなど発表者から得られた示唆をもとに多様な意見が交わされました。参加者数は18名（うち非会員2名）の研究会でしたが、日本モデルを再考する有意義な研究会となりました。

（九州支部支部長 眞鍋和博・北九州市立大学）

【振込先】

- ・郵便口座 02750-1-108419
口座名義（「加入者名」の欄）：
日本インターンシップ学会
 - ・ゆうちょ銀行
店番 : 279 (当座)
口座番号 : 108419
口座名義 : 日本インターンシップ学会
- *恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

（事務局長 山口圭介・玉川大学）

事務局からのお知らせ

2023年度会費納入のお願い

2023年度の会費納入につきまして、会員の皆さまに案内をご送付させていただいております。今年度より、オンライン決済（クレジットカード決済）も可能となりましたので、ご活用ください（学会ホームページの「会員情報照会・更新」にログイン後「オンラインクレジット決済システム」または「年会費のクレジット決済」へお進みください）。

なお、前年度会費（2022年度：2022年7月から2023年6月）未納の方は、速やかに会費納入をお願い致します。『研究年報』投稿、役員選挙、次年度大会発表は2023年度会費が納入済みであることが条件ですので、会費納入は早めをお願いいたします。

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER 2023 No.1

発行日：2023（令和5）年11月30日

発行：日本インターンシップ学会 会長 吉本圭一

編集・印刷：日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 上岡史郎

事務局：日本インターンシップ学会事務局 事務局長 山口圭介

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2 大住ビル 401

(株)ガリレオ学会業務情報化センター内

日本インターンシップ学会 会員管理事務局

TEL：03-5981-9824 FAX：03-5981-9852

e-mail: g035jsi-support@ml.gakkai.ne.jp